

活力ある指導者協会を目指して ～北海道スキー指導者協会会長就任に当たって～

会 長 坂 井 和 夫

この度、凶らずも大先輩坂井敏夫先生の後を受け、会長の重責を担うこととなりました。

この北海道スキー指導者協会は、私どもの先達が、英知を集めてスキー界の発展を願い設立した経緯があり、約60年の誇るべき歴史を有する由緒ある団体であります。

本協会の設立目的は「加盟団体相互の親睦と資質の向上を図りつつ、健全なスキーの発展に寄与する」ことですが、設立当初は趣旨に賛同して参加した団体は意外に少なく、しかも運営体制に不備もあって、約10年間の活動休止状態に陥った時期も経験しております。

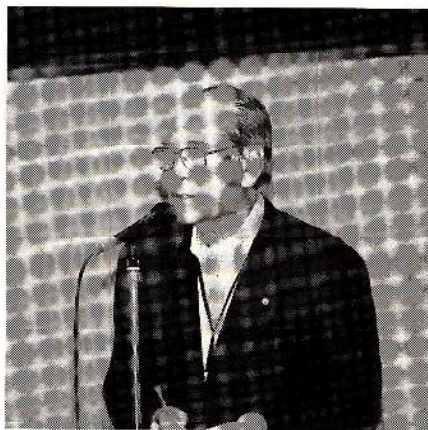
しかし、その後は当協会の活動方針などに理解が広がり、最盛期には70余支部、八千三百余名を超える加入があり、機関紙の発刊、全道行事も軌道に乗り、活発な運営がなされて今日に及んでおります。

このように充実した活動内容に対しては、全国的にも例は少なく、さすがに「スキー先進地を自認する北海道」として、高い評価を受けつつある今日ですが、スキーを取り巻く社会状況の変化の影響が少しずつ現れてきております。

スノースポーツの振興に当たって、スキー団体や行政も含め、関係団体のあの手のこの手の懸命の努力にも拘わらず、スキー人口の減少に歯止めが掛からない状況が続いております。

このような状況について、スキーに拘わる私どもの立場からは、このまま見過ごすことは出来ません。なぜなら、それは「スキーだからこそ味わえる魅力」を我々こそが知っているからであります。

私どもの団体は、このスキーの持つ魅力を知り尽くした「輩の集団」であり、この人達のつ



ながりを活用しながら、スキー振興につなげる役割を果たしていかなければなりません。

そこで、所属するグループ、団体それぞれが元気になれば、親である本協会にも元気が出ることを考え、取り組んでみたい事例を提案します。

- ①活発な活動事例の紹介
- ②抱える悩みや解決策の事例
- ③本協会に対して取り組んで欲しい事柄の提案。アンケートの実施
- ④若い会員の発言の場の設定

というような、情報交換と協会からの熱い呼びかけの発信をすることで、活性化につなげる手立てが見つからないかを探ってみたいと思うのです。

これらは、「語りに易し」で具体化には検討を要する部分が多いものの、スキー振興の一翼を担う意気込みを持って、取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様の今後一層のご鞭撻とご協力をお願い申し上げます。